

これからの

人権

夢や希望をもって
生きるために



去る三月五日(金)から七日(日)の三日間、第十七回部落解放文化祭が行われました。最終日には「人権を考える集い」として、ノンフィクションライターの角岡伸彦さんに、「これからの部落問題」という演題で講演をしていただきました。

以下に、そのおおまかな内容をまとめてみました。

最近の部落問題

部落問題についての意識が、世代や地域によって変化してきていると思う。長い目で見れば、部落差別はかなりなくなってきたのではなからうか。しかし、依然として差別意識が残っている側面もある。

夢や希望をもって
生きるために

り、今でも、私のところへ結婚差別などで悩む人からの相談がある。

では、なぜ差別は残されているのか。部落の人はこうだとか、在日外国人の人はこうだ、女はこうだ、というふうな、ひとくくりにして思い込む。そして、自分たちとは違うという思い込みや、結婚したら一緒に差別を受けるのではないかという、差別されることへの恐れや、今だに「家」という考え方で世代を申刺しにして、意識を縛ってしまう発想などが差別を温存させているのではなからうか。

部落問題への「出会い」

部落に対する「マイナスイメージ」も、差別意識解消の妨げとなっている。差別が厳しかった時代の世代だけでなく、若い世代の人にも「マイナスイメージ」をもつ人が少なくない。

私自身、「部落出身の人に会ったことのない人が、なぜこのようなマイナスイメージをもつのか。それは、部落問題との「出会い」にあるのではないか。

家庭での一言が、子どものイメージをつくってしまうように、学校で部落問題を教わったときのイメージで決まるのではないか。学んだ子どもがイメージで、貧しいとか、かわいそうだと思ってしまう場合も多いのではないか。それぞれの人権問題とどのように出会うか、どう伝わるかが、非常に大事な問題だと思う。

ともすれば、何々問題となると、その問題だけを伝えようとしてしまうが、もっと幅広い文化や人との出会いなどを含めて伝えて欲しい。そう

いったことといかにかにうまく出会えるか、出会わせるかが大事なことだ。僕は出会い系だ。人と率直に話をするのが大事だと思っている。

角岡さんが教えてくれた差別解消のヒント

角岡さんの話の中には、現実はこの社会で起こっていることをありのままにとらえ、何が変わり、何が変わらなかつたかを冷静に見つめ、差別が残されている理由を分析し、その解消への道筋が示されています。部落差別について語りながら、他のさまざまな人権問題を解決するためのヒントもたくさんありました。

最近の報道を見ても、残念ながら、児童虐待・連れ去り、ストーカー、ハンセン病患者や障害のある人に対する宿



泊拒否など、社会的弱者の立場に立ちやすい人に対する犯罪や事件が絶えません。こういった問題の根っこには、偏見や思い込みあるいは無知・無関心から気づかなかつたり、知ろうとしない態度があるのではないのでしょうか。

笠岡市にも多くの人が住んでいます。男も女も、子どもも高齢の人も、障害のある人も一人ひとりがいろいろな面をもっています。みんな違って、います。それを全部受け止めて、関わり合いながら生きていくこと。出会いを大切に、正しい理解をすること。一人ひとりが夢や希望、そして生きがいをもつて生きていくためには、そういったことが大切ではないでしょうか。

笠岡市では、一人ひとりが生きがいをもって、生き生きと生活できるまちづくりのために、「人権尊重の都市づくり条例」に基づき「笠岡市人権施策基本方針」を策定しました。今後は、この基本方針を具体化し、人権施策のさらなる充実を図っていきます。